

。木村宏「諸蕃志記載「新里漢」の位置と東西洋考記載の「呂蓬」
 —東南アジア東部島嶼地域の歴史地理学的研究Ⅵ—」(京都外国語大
 学「COSMICAW」別刷)

。「地理」二三巻七号

。三浦鉄郎「天王砂丘(秋田県)の新田開発」(「聖霊女子短期大
 学紀要」六号別刷)

。竹内淳彦「大都市の産業地域社会」(「日本工業大学研究報告」
 七巻一号別刷)

。米田巖「大西洋縁辺地帯の農業景観(1)―ケルト地域の農地組織と
 集落をめぐって―」(「東京大学教養部教養学科紀要」一〇号別刷)

訂正

紀要二〇号掲載の「都城的集落の機能と象徴」の訂正

誤

正

一三五頁七行目 大軍・将

大将・軍

一三八頁一三行目 基準にして

基準にして北へ

一三八頁一五行目 冬至

夏至

一三八頁一六行目 冬至

夏至

一三九頁九行目 冬至

夏至

一四〇頁八行目 その反対

その反対が大・体・冬・至・の・日

一四〇頁八行目 日没の

没・の・方・位・で、この日没の

一四四頁二三行目 一九一七年

一九一七年

一四九頁五行目 冬至の日出

冬至の日出、夏至の日没

日没の

の

在庫バックナンバーのお知らせ

紀要と会報のバックナンバーは左記の通りです。

紀要	10集	一、〇〇〇円	11集	一、〇〇〇円	12集	一、〇〇〇円
	13集	一、三〇〇円	14集	一、六〇〇円	15集	一、七〇〇円
	16集	二、五〇〇円	17集	二、七〇〇円	18集	三、〇〇〇円
会報	19集	三、三〇〇円	20集	三、六〇〇円		
	85・86・87・88・89・90・91・92・93・95・96・97・98					
	各号二〇〇円					

※会報・紀要とも送料は実費負担。売切れの節はご容赦下さい。

紀要の問い合わせは「一〇一 東京都千代田区神田駿河台二一〇
 古今書院(電話〇三一二九一一二七五七)へ、会報は学会事務局
 へ。

紙碑 島田豊寿教授を想う

夏休みのインカ、マヤ遺跡の踏査から帰ると高知大名普教授の谷
 湖梅亀氏から「島田(松本)豊壽君去る十五日急逝致しました。そ
 の夜TVを見ていて突然倒れたそうです。……同君は数年前に大病
 を患りましたが、近頃は元気になり、この七月には奥様と北海道
 旅行をされた位でしたのに、惜しい友を失いました」の報告をうけ
 た。島田君―否私には松本君の方がなつかしいが―は、私より一つ
 年上であったが、君は高知師範卒業後、笈を負うて京都に私をたず

ね、私の住んでいる北白川付近で小学校教員をつとめ乍ら、立命館大学専門部歴史地理科を昭和十九年、ついで同大学地理学科を昭和二十二年九月に卒業せられた。学部時代は今なき岩根教授退職直後でもあり、私は同君の高知平野の先史地理を取扱った卒論を審査した。すぐれた篤学者であり、土佐人特有のイゴツソウウ精神をもって卒業後君は土佐に帰り、一人こつこつ、当時公開せられた長宗我部地検帖の分析をはじめられた。君は年下の私には教師としてはなく、あくまで学問の競争相手として対せられ、遂に今日に至った。あの名著「城下町の歴史地理学的研究」が出る前、プリント版をいただいた折、語学の弱い君の序説を批判して、おこらせたこともあった。帰郷後、この「地検帖」を最初に注目された故内田寛一先生の流れを汲む浅香幸雄教授の指導によって、あのがっちりした書物を学位論文にせられたのである。その後私が京大で教えた小林健太郎君にも継承され、昨今小林教授また独自の領域を展開させている。私が旧制高知高校の学生だった頃、町中で三野與吉氏の地形学原論を求めた話をしたら、彼もその頃同様だったといっていた。私、谷瀨氏とも酒の友達でもあり、土佐の国府を一緒に調査した日もあった。既往を回想し、御冥福を祈る。

(藤岡謙二郎)

歴史地理学会会報 第 99 号

昭和53年9月1日発行

編集発行 歴史地理学会

代表者 菊地利夫

〒214 川崎市多摩区生田4764

専修大学文学部地理学研究室内

TEL 044-911-7131(内線)66

振替口座番号(東京)4-81362

印刷 有限会社 研 營 社

〒104 東京都中央区新富1-2-12

エンジェルプリントショップ内 TEL 553-9837

定 価 200円